



瀬田川の南郷から大石の間にある景勝地、鹿跳溪谷。罅穴(おうけつ)のある米かし岩など奇岩の間を流れる急流でラフティングを楽しむ観光客も多い。

# 鹿跳溪谷

伝説と歴史の舞台を歩く

大津市  
DATA

- 歩行距離 約3.5 km
- 歩行時間 約1時間30分

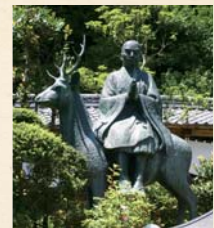


## 白鹿が弘法大師を背に乗せ跳び渡った川

琵琶湖から唯一流れ出る瀬田川を下流へ。南郷洗堰を過ぎると徐々に川幅が狭まり、流れの激しい溪流になる。こは、鹿跳溪谷と呼ばれ、近年は急流下りのラフティングが楽しめるスポットとして大人気だ。

鹿跳の名称は、瀬田川の右岸にある立木観音の縁起と関係が深い。1200年前、諸国を修行中の身だった弘法大師(空海)は、瀬田川のほとりに立った際、対岸の山中に光り輝く霊木を発見する。しかし、川は急流のために渡れない。そこに突然、白い鹿が現れ、大師を背に乗せ、岩を跳んで渡ってくれた。白鹿は観世音菩薩の化身だったという。この奇跡にふれた大師が、霊木に観音像を刻み、本

立木観音の正式な寺名は立木山安養寺。本堂の前に弘法大師の像がある。寺の縁起を知らないと思議に見えるが、これが“鹿跳”の由来を物語る。急な石段を登ってきた参拝者には、鹿の背で合掌する大師の姿がまぶしく見える。



弘法大師像

尊としたのが立木観音だといわれている。当時、大師は42歳の厄年だったことから、立木観音は厄除け観音として信仰されるようになった。

瀬田川沿いの国道は歩道がないため歩くのは危険だ。鹿跳橋バス停の橋の下から溪谷沿いに立木観音の参道があるので、これを利用すると

いいだろう。短い距離だが、木々の間から溪流の風情が楽しめる。

立木観音の境内本堂までは約800段の急な石段が九十九折に続く。体調に合わせてゆっくり登ってみよう。参拝後は南郷方面の古い参道へ。心地よいハイキングが楽しめる。



**モデルコース**

鹿跳橋バス停 8分 | 立木観音前バス停 25分 | 立木観音 25分 | 袴腰山分岐 20分 | 南郷バス停

※移動時間はあくまでも目安です。  
 ※JR石山駅から鹿跳橋まで京阪バス(大石小学校行き)で約20分。  
 ※南郷方面の参道は山道の一部が崩落のため要注意。

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!  
<http://www.keibun.co.jp>

### “Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな「近江」という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょうか。